



架け橋プログラム開発会議が行われました

1月30日、宮城教育大学教授 佐藤哲也先生、東北大学加齢医学研究所 応用脳科学研究分野助教 榑浩平先生、お二人の有識者をはじめ架け橋プログラムに関わる代表者13名が集まり、開発会議が行われました。令和4年度の取組状況や運営会議の内容等を報告し、両先生から今後の進め方について下記の内容のご助言をいただきました。



○宮城教育大学教授 佐藤先生より

1 家庭の参画について

自己管理能力の面については、家庭の影響を大きく受ける。家庭のサポート意識が必要である。今後、プログラムに計画していくために保護者をどう巻き込んでいくのか。大きな提案となる。取組について保護者に周知を図る必要がある。

2 発達障害のある子への支援について

「自立心」を考えるときに、特別支援の視点でも考えていきたい。障害のある子は、人に頼ることも大事である。上手に頼む力は、協働性の視点にもつながると思う。架け橋プログラムのねらいの一つである、“全ての子どもを一人も取り残さない”を念頭にして。

○東北大学加齢医学研究所助教 榑先生より

1 経年変化による検証について

自己管理能力、主体的な行動について情報の共有が大切である。現状の課題提起を行いながら今後も継続性をもって検証していきたい。

【架け橋プログラム開発会議とは】

- ①架け橋期のカリキュラムの開発
 - ②カリキュラムの実施に必要となる研修、教材としての環境の活用等の開発
 - ③持続的・発展的な架け橋期のカリキュラムに必要な支援
 - ④国による架け橋期の教育の質保障の枠組みからの助言や各園・小学校の実践の検証結果を踏まえ改善
- などについて協議する会議であり、架け橋プログラム事業全体組織図の上部に当たります。
(※裏面 (表1) 組織図及び体制図 参照)



架け橋プログラム 運営会議

運営会議は、開発会議や視察での報告、架け橋プログラム事業の推進、具体的な運営等を協議・検討する会です。また、運営会議メンバーでの会議のほか、「会議」「研修」「カリキュラム作成」「記録・広報」「総務・渉外」の各部に分かれて活動しています。

運営会議は2月24日までに4回開かれています。昨年12月23日に行われた第1回の会議ではお茶の水女子大学教授宮里暁美先生を講師に「0歳からのまなびが未来を拓く～架け橋プログラムがめざすもの」と題しての講演をオンラインで研修しました。



架け橋プログラム ブロック会議

市内の幼稚園・保育園・小学校を3つのブロックに分け、ブロックごとに今後の交流等について協議する場です。1月11日には、架け橋期のカリキュラムで「白石市の目指す共通の視点」について各ブロックで話し合いました。

A ブロック

- ・大鷹沢保育園
- ・白川保育園
- ・白石第一小学校
- ・大鷹沢小学校
- 白川小学校

B ブロック

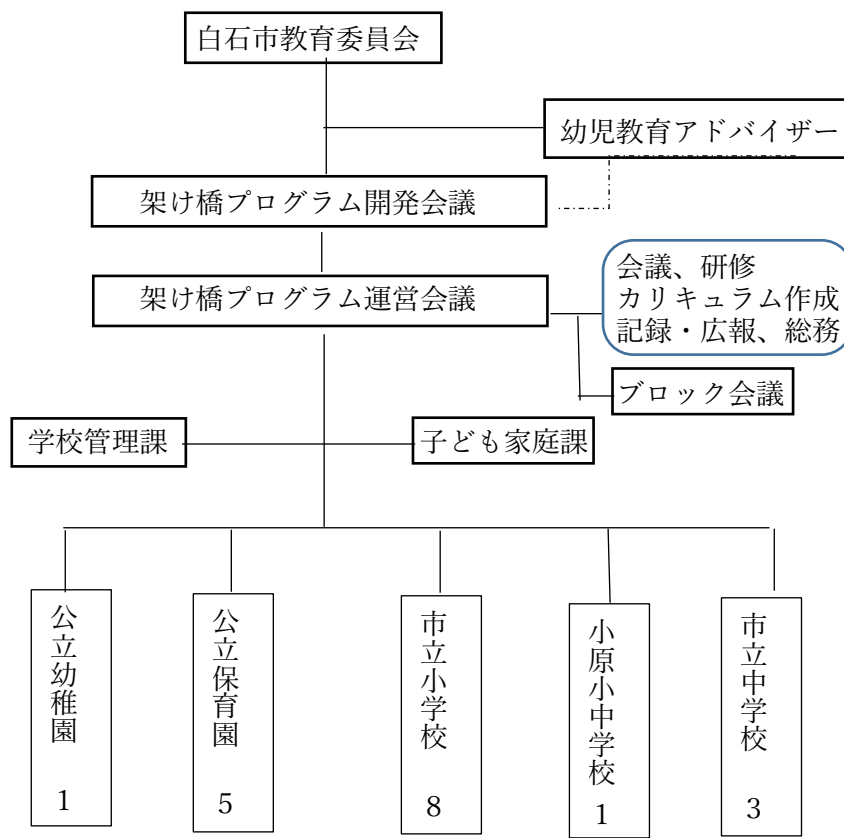
- ・第二幼稚園
- ・南保育園
- ・越河保育園
- ・白石第二小学校
- 越河小学校
- ・大平小学校
- ・小原小学校
- はブロック長

C ブロック

- ・北保育園
- ・福岡小学校
- 深谷小学校

※R5以降 市内中学校・私立幼稚園・保育園も参加予定です。

(表1) 組織図及び体制図 (令和4年度)



架け橋プログラム事業のキャラクターです。よろしくお願いします。



ただいま、作成中！
運営会議メンバーで、「幼保小の接続カリキュラム」を現在、作成しているよ。